

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 : 平成 18 年 10 月 1 日  
(2)調査対象期間 : 平成 18 年 7 月～9 月期の実績および平成 18 年 10 月～12 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	22 社	73.3%
水産業部会	30 社	25 社	83.3%
機械工業部会	30 社	27 社	90.0%
建設業部会	30 社	20 社	66.7%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	23 社	76.7%
合 計	150 社	117 件	78.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

－業況は小幅改善するも依然厳しい－

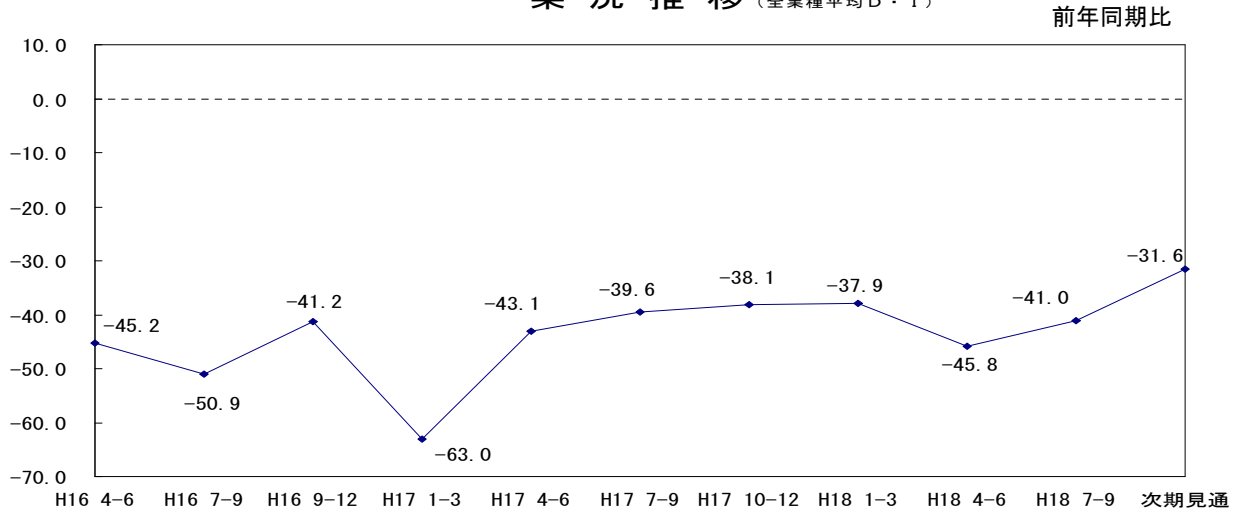
### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成18年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△41.0**と前回調査時の△45.8より**4.8ポイントマイナスを改善**しました。緩やかな回復基調の中、前期は大幅にポイントを悪化させましたが、今期は依然マイナスながら幾分業況が改善した結果となっています。しかしながら、市内経済を取り巻く経営環境は依然厳しい状況が続いていることが再確認されます。

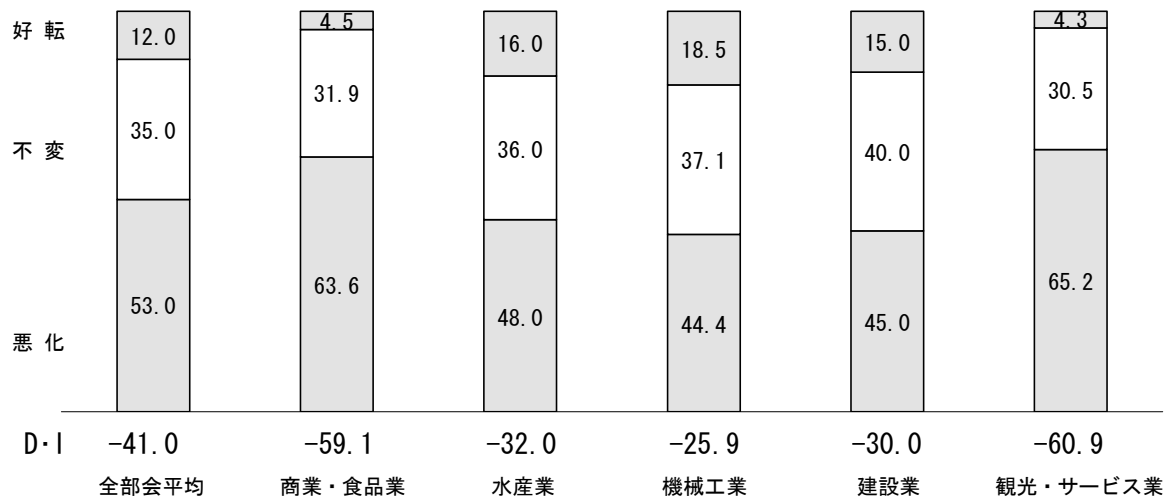
部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前期△55.0→今期△59.1]、水産業[前期△36.0→今期△32.0]、機械工業[前期△38.1→今期△25.9]、建設業[前期△36.4→今期△30.0]、観光・サービス・諸業[前期△66.7→今期△60.9]となりました。前期に引き続き昨年好調であった水産業が苦戦をしているほか、繁忙期であった観光・サービス・諸業においても依然厳しい状況が伺えます。しかしながら、機械・工業と建設業は依然マイナスながらもDI値が改善しており、今後、持ち直しの動きが期待されます。

**来期(平成18年10月～12月)**については、今期と比べて**業況判断DIが9.4ポイント改善**するとの見通しが寄せられています。特に今期停滞が見られた商業・食品業、観光・サービス業において大幅にマイナス幅が縮小する見通しとなっており、これから繁忙期を迎える年末にかけて業況回復の期待が持たれます。

業況推移 (全業種平均D・I)



今期の業況(前年同期比)



経営上の問題点としては、引き続き**石油製品の高騰による経費負担増**を訴える声が多く寄せられています。これから石油製品の需要が増える冬期を迎えることから、経営に与える負担が懸念されます。また、積極的な設備投資を控えていることから、**修理費の負担**が増えているとの声も寄せられています。

このような中、基幹産業の強化のため積極的な取り組みを求めるとともに「**商・工・農・漁の連携**」と、「**政・官・民一体となった取り組み**」を推進し現状を打破して欲しい、との声も寄せられています。

設備投資については、前期同様、依然慎重な動きが続いています。

## ■部会別の動向

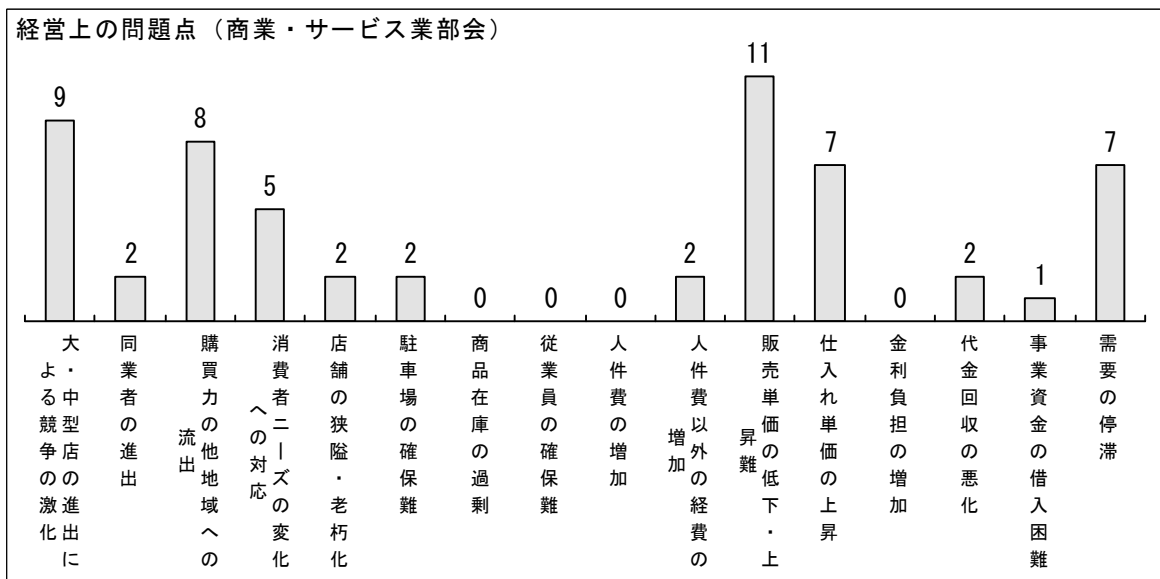
**【商業・食品業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）△59.1（前期△55.0、来期見通し△40.9）〕

業況DI値（前年同期比）は、4期連続で大幅なマイナス値となり、依然厳しい状況で推移しております。例年よりも気温の高かった8月以降に消費の回復が期待されましたが、予想を下回る結果となっています。次期の見通しは18.2ポイント大幅に改善すると期待されています。

経営上の問題点としては「大・中型店との競争の激化」「販売単価の低下」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多い。

### 《業界の問題点等》

- ・建物のメンテナンス（塗装・補強）をしたいが、資金的に困難な状況。（小売）
- ・中心市街地の空洞化現象は、ここ紋別だけの問題ではないが、空き店舗の利用にあたっては老朽化で改修費等投資に警戒感があるものと思われます。（小売）
- ・事業主の「やる気のなさ」が顧客動員のブレーキになっていると思われる。（例：季節感を感じない、古いポスターが貼られたまま、ウィンドウガラスの汚れ、店頭路面のゴミ、カラスのフン、歩道との間の雑草等）。（小売）
- ・車で来店が多いだけに、道交法改正に伴い、店頭駐車場を持たない商店街はますます客足が遠のいてしまう。
- ・業界全体で目玉になる商品が全くない為、しばらく好転する見通しが無い。（小売）
- ・紋別市で大型店の進出を阻止しなかった為、旧商店が生き残って行けなくなっています。この責任は市にあると思います。（小売）
- ・あと何年続けられるか…仕事が継続してあるので閉店するのに判断がつかずにいます。（製造小売）

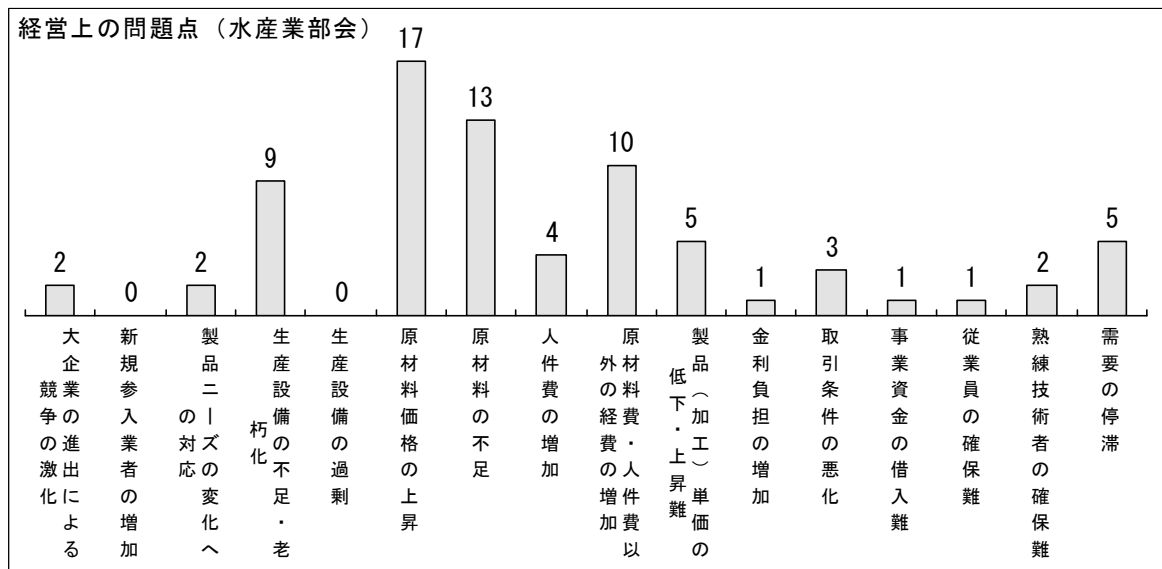


**【水産業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△32.0（前期△36.0、来期見通し△32.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は前期の△36.0から4.0ポイント改善しましたが、依然低い水準で推移しています。最盛期をむかえる今後の回復が期待されますが、来期の見通しも今期と同様、慎重な意見が多く寄せられています。

**《業界の問題点等》**

- ・設備投資したいのですが、銀行が思うように融資してくれない。（水産加工）
- ・飽食の時代に対応できず。（水産加工）
- ・これ以上の石油製品の値上がりは大変厳しいです。（水産加工）

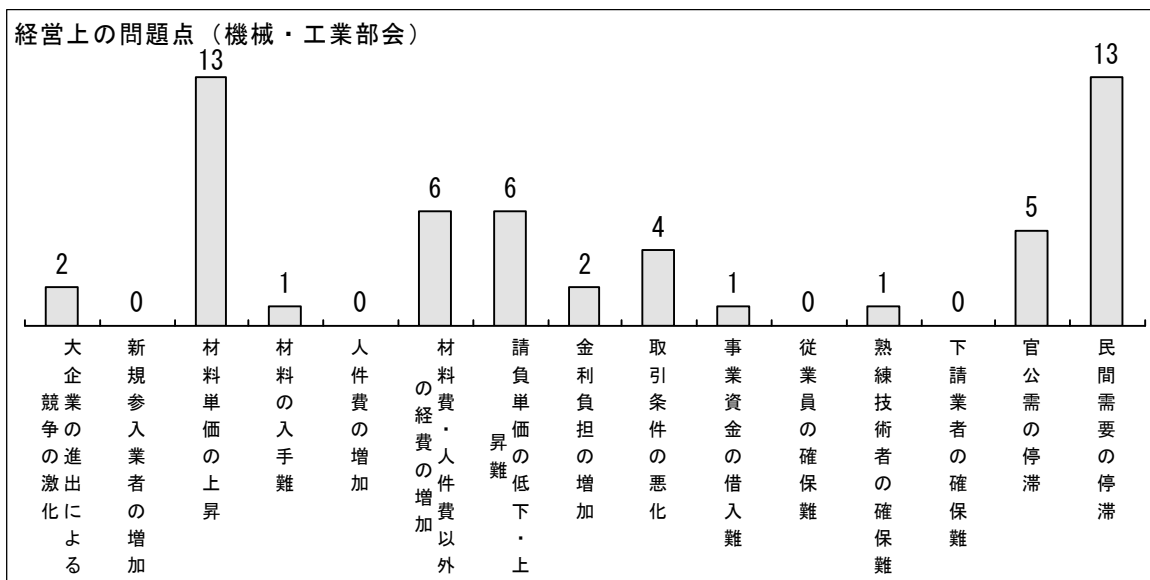


**【機械・工業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△25.9（前期△38.1、来期見通し△25.9）]

業況判断DI値（前年同期比）はマイナスながら4期連続で回復し、前期比で12.2ポイント改善しました。売上DIと採算DIも同様に回復しており、資金繰りDIは△3.7と全業種の中でも際だって良好な数値となっています。経営上の問題点として、燃料費・材料費の高騰を訴える声が多く寄せられている他、「若手技術者の育成を図らなくては・・・」という声も寄せられています。

**《業界の問題点等》**

- ・業界の仕事の全体量が減少している。（機械修理）
- ・燃料費の高値、修理費のかかり過ぎ。（重機）
- ・市場縮小と需要の停滞。（印刷）
- ・基幹産業（紋別の場合は水産業界）の強化と関連企業への資金環流の推進を一段と図る。（機械修理）
- ・材料費の重なる値上がりで見通しが立たない。（鉄工）
- ・業界全体で若手技術者の育成が遅れている。（鉄工）
- ・売上不振（機械修理）

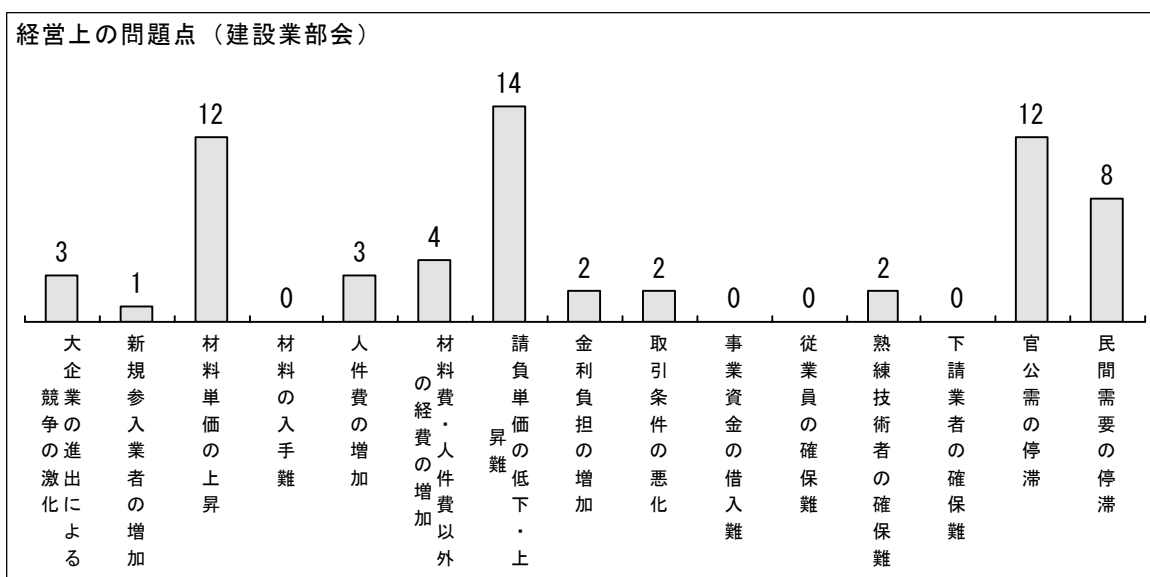


【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△30.0（前期△36.4、来期見通し△20.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は3期連続でわずかながら回復しましたが、依然厳しい状況で推移しています。来期は前期に引き続き本格的な繁忙期を迎えマイナスながらも大きく改善するとの明るい見通しが寄せられていますが、「好転した=15.0ポイント」「悪化した=45.0ポイント」との結果から、同業種の中において2極化が進んでいることが伺えます。

《業界の問題点等》

- ・商・工・農・漁の連携が見られない。政・官・民も同じ。紋別特有の旧体制を見直すべし。（土木）
- ・営業地域による民間の新築・改築発注件数が年々減少し、また、他の地域の業者が参入して競争が激化している。（建築）
- ・資材の値上がり、原油の値上がりなどで利幅がうすい事。（電気工事）



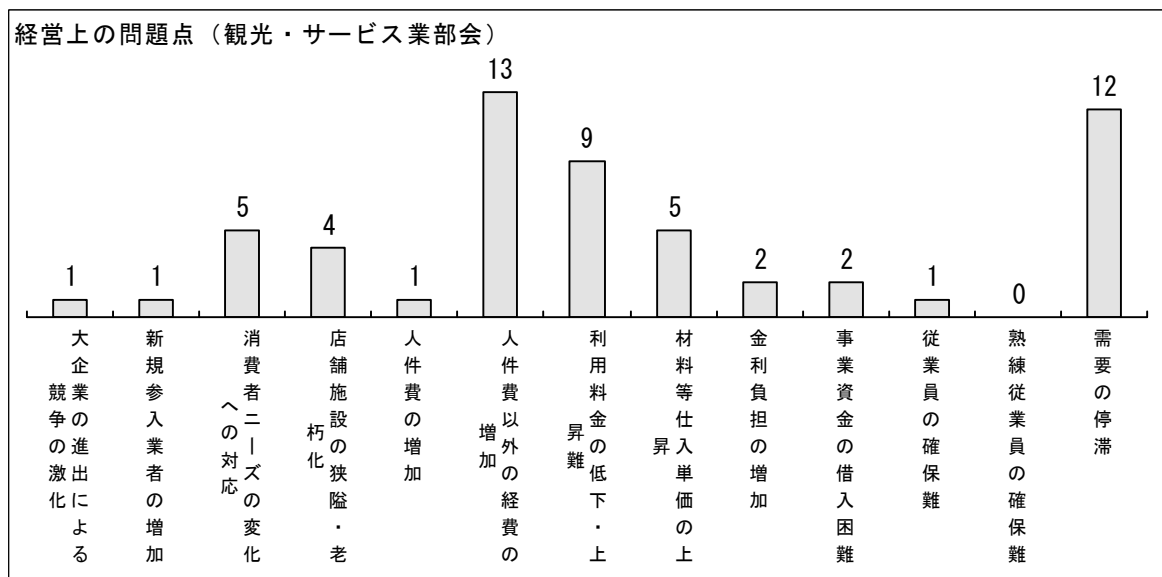
**【観光・サービス部会】**〔業況判断DI値（前年同期比）△60.9（前期△66.7、来期見通し△39.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前期より5.8ポイント小幅ながら改善しました。来期は依然マイナスながらも今期より21.8ポイント大幅に改善されるとの見通しであり、年末年始の繁忙期に期待が寄せられています。

経営上の問題点としては需要が停滞する中、「人件費以外の諸経費の増加」という声が多く寄せられているほか、「利用料金の低下・上昇難」という声も寄せられています。

**《業界の問題点等》**

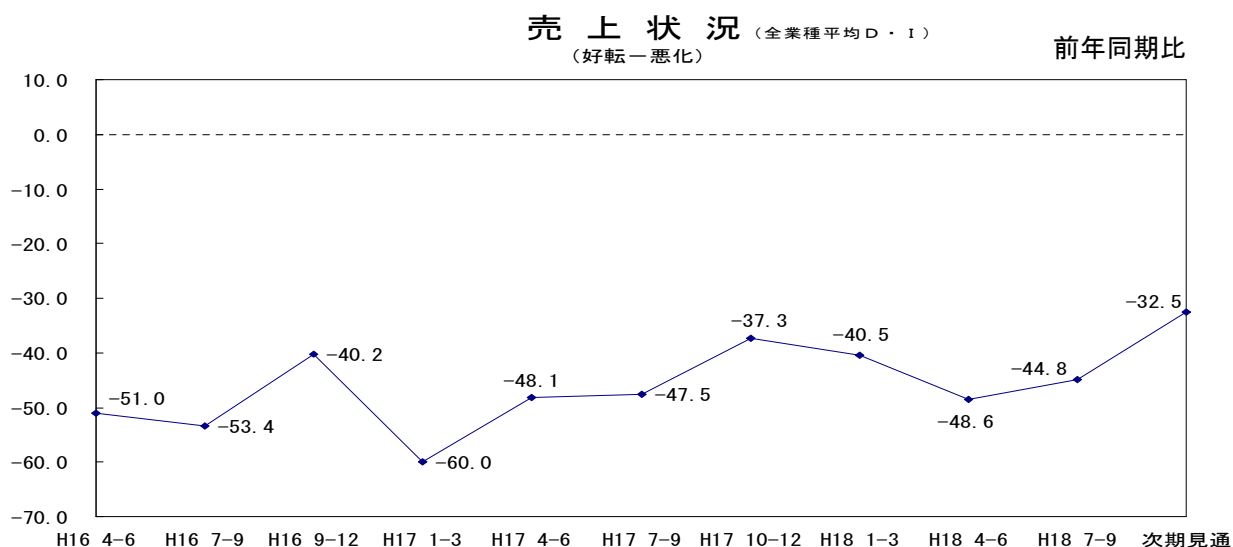
- ・ 商店街の衰退に対応するため、街づくりの長期ビジョンが必要と思われる。（飲食店）
- ・ 同業者との横のつながりを密にし、地元の同一食材を使って全店でそれぞれのメニューを考えて、期間限定で大都市等に売り出す！一店一店の力には限界があると思う。（飲食店）
- ・ 10月から3月にかけての燃料（灯油）の値上がりが気になる。（飲食店）
- ・ 飲食店街の活性化を図り、中心街に賑やかさと明るさを実現させたいと思います。それには行政も固いことばかり決めないで官官接待を少々緩める事も繁華街を生き返らせる一策ではないかと思えます。（運送）
- ・ 原油の値上がりと客の減少。（クリーニング）
- ・ お金を借りても返せない状態なので借りない。業界自体不況というか人口減で売上低下、それに対応して料金を上げたくても利用客の減少になれば困るし、今はまだジーツと我慢しかないと思っている。（理容）
- ・ 燃料代高騰による経費の増大（運送）
- ・ 人口の減少（不動産賃貸）



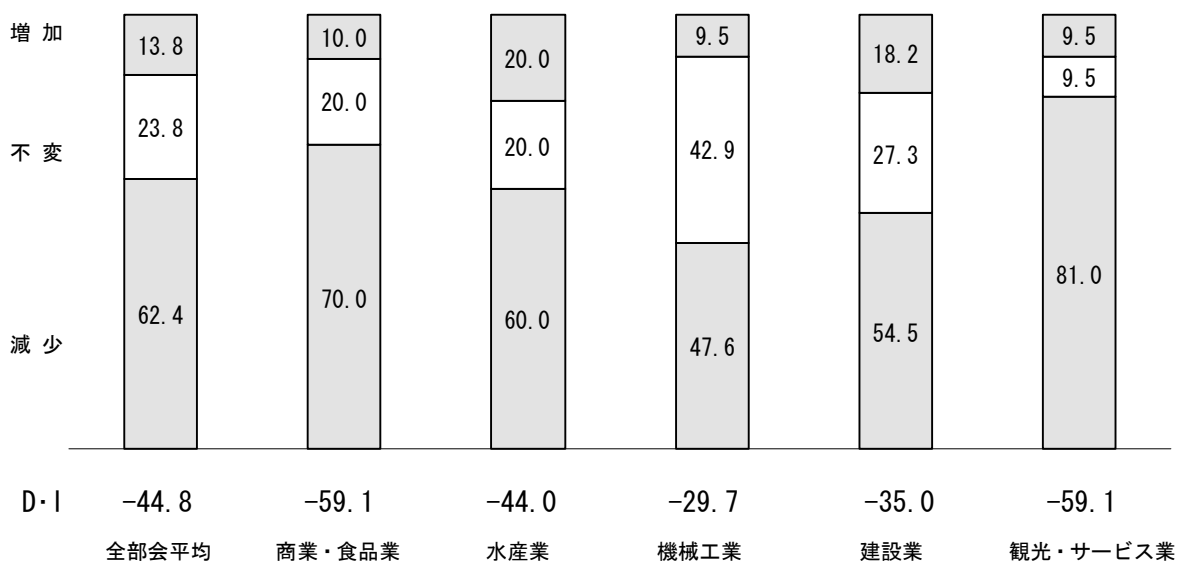
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 17 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）

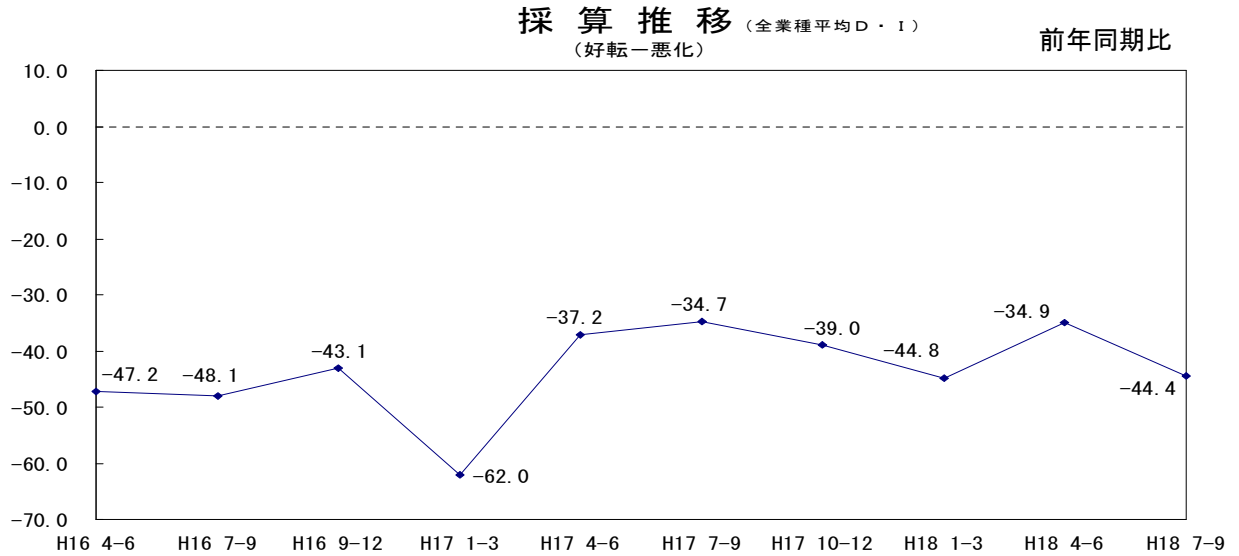


全業種平均で D・I 値  $\Delta 44.8$ 〔前回調査時（平成 18 年 4～6 月期  $\Delta 48.6$ ）より 3.8 ポイント改善〕  
来期は 12.3 ポイント回復の見込み。

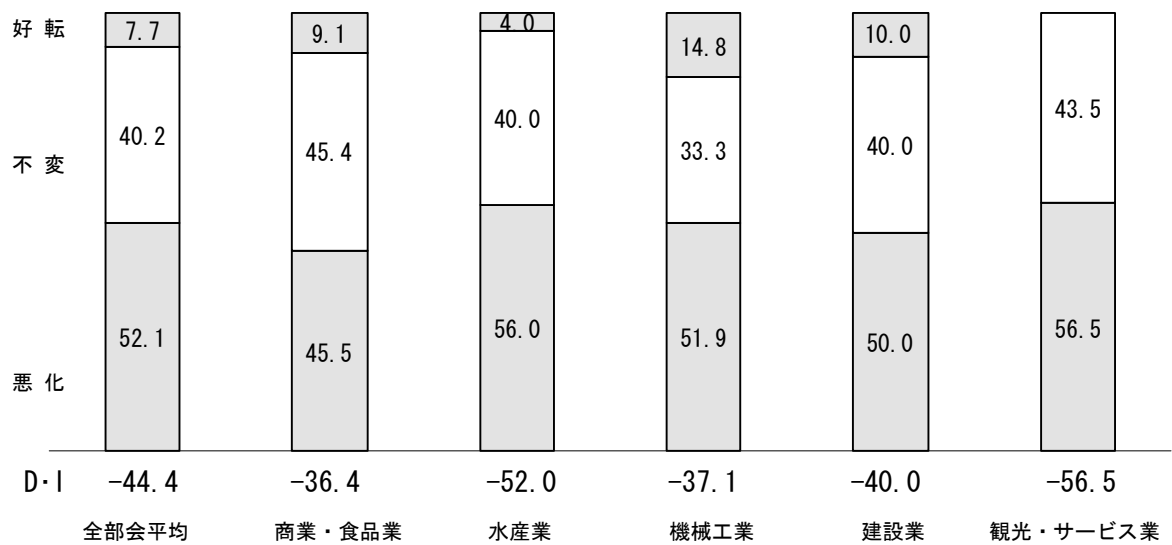
〔部会別 D・I 値〕 商業・食品業〔前回  $\Delta 60.0 \rightarrow \Delta 59.1$ 〕、水産業〔前回  $\Delta 40.0 \rightarrow \Delta 44.0$ 〕  
機械工業〔前回  $\Delta 38.1 \rightarrow \Delta 29.7$ 〕、建設業〔前回  $\Delta 36.4 \rightarrow \Delta 35.0$ 〕  
観光・サービス業〔前回  $\Delta 71.4 \rightarrow \Delta 59.1$ 〕

## (2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 17 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の採算水準）



### 採算推移（今期の水準）



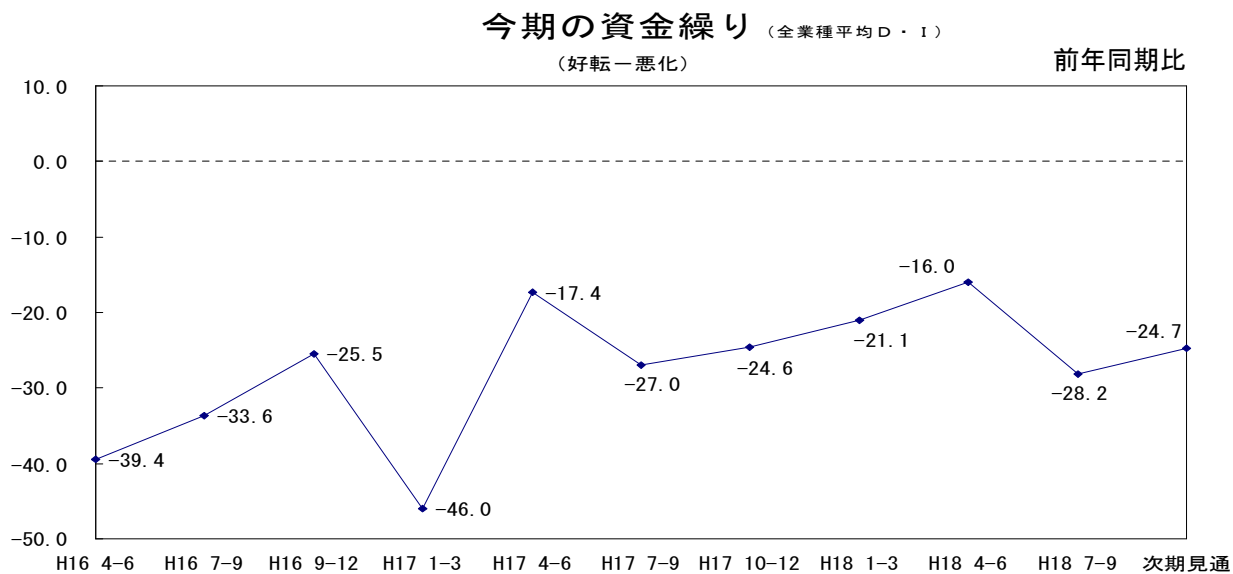
全業種平均で DI 値△44.4〔前回調査時（平成 18 年 4～6 月期△34.9）より 9.5 ポイント悪化〕

[部会別 DI 値] 商業・食品業〔前回△35.0→△36.4〕、水産業〔前回△32.0→△52.0〕  
 機械工業〔前回△47.6→△37.1〕、建設業〔前回△40.9→△40.0〕  
 観光・サービス業〔前回△61.9→△56.5〕

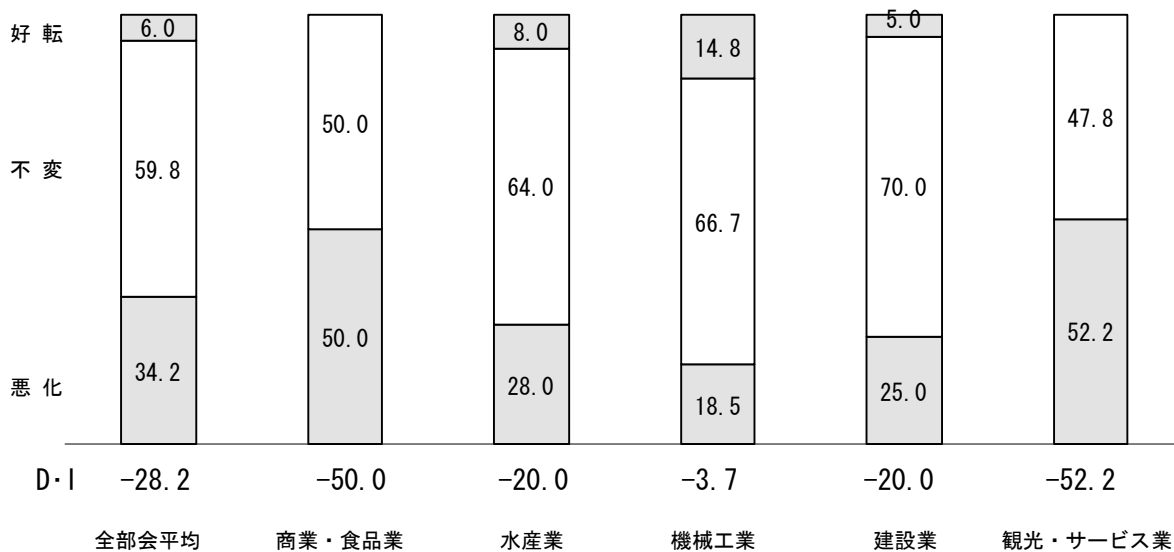


### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 17 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



### 今期の資金繰り（前年同期比）

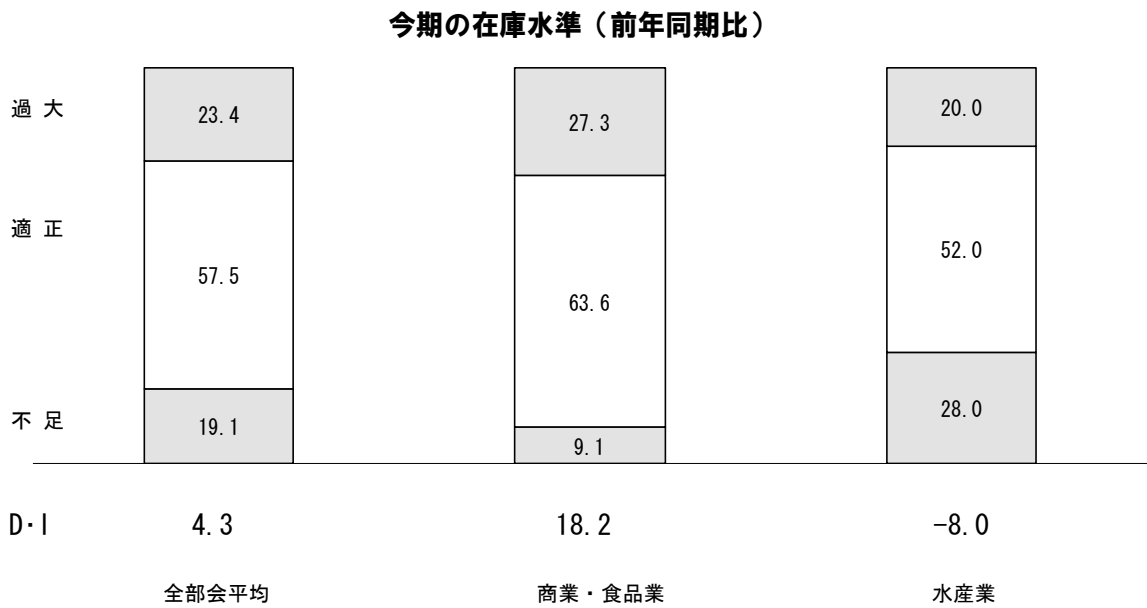


全業種平均で DI 値△28.2〔前回調査時（平成 18 年 4～6 月期△16.0）より 12.2 ポイント悪化〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回△35.0→△50.0〕、水産業〔前回△24.0→△20.0〕  
 機械工業〔前回△23.8→△ 3.7〕、建設業〔前回△36.4→△20.0〕  
 観光・サービス業〔前回△47.6→△52.2〕

#### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 17 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の在庫水準）



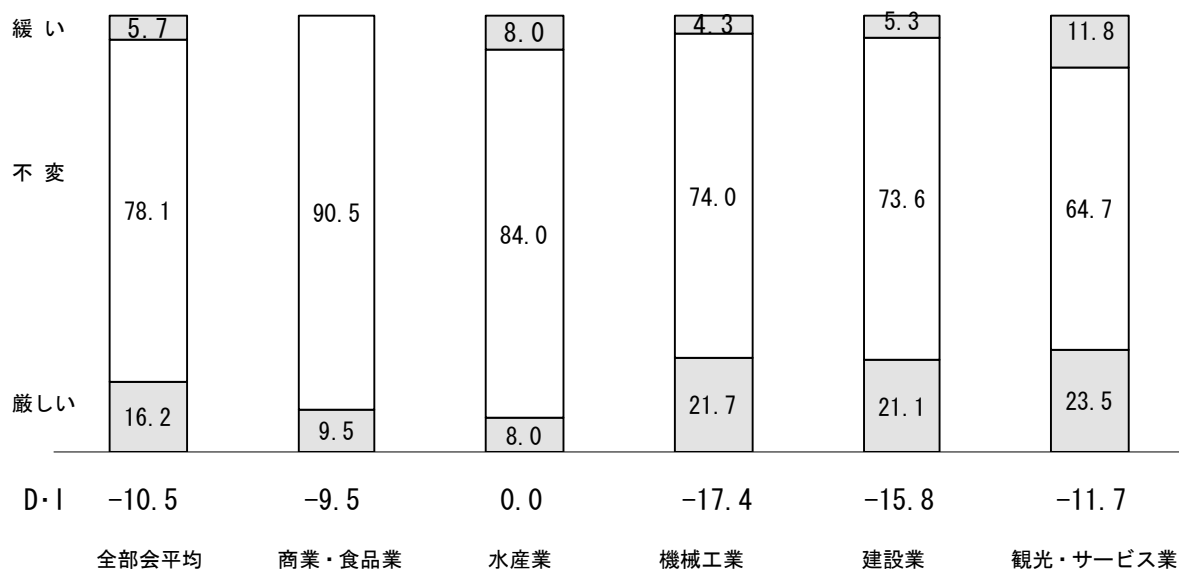
全業種平均でDI値 4.3〔前回調査時（平成 18 年 4～6 月期△29.4）より 33.7 ポイント在庫過剰〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 5.0→18.2〕、水産業〔前回△4.0→△8.0〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成17年7月～9月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

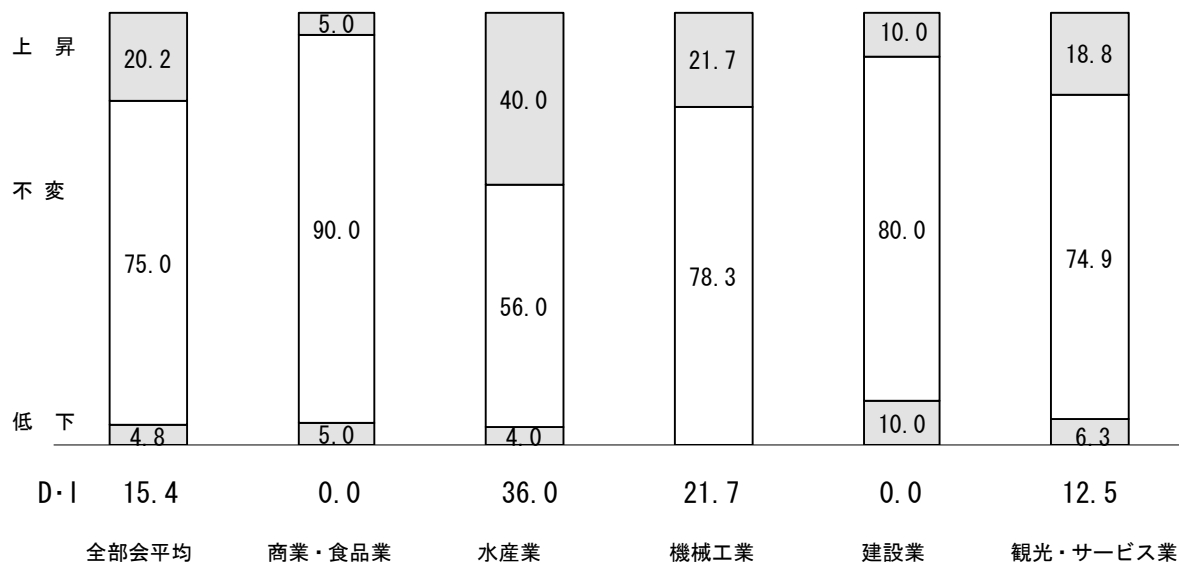
今期の金融機関の貸出姿勢



(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成17年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

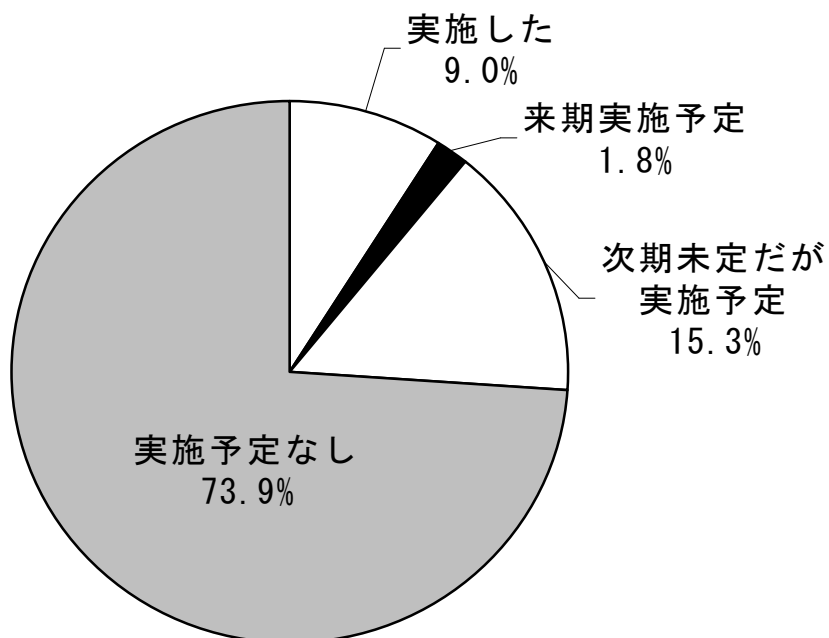
今期の借入金の金利水準



## (7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

### 設備投資の実施状況



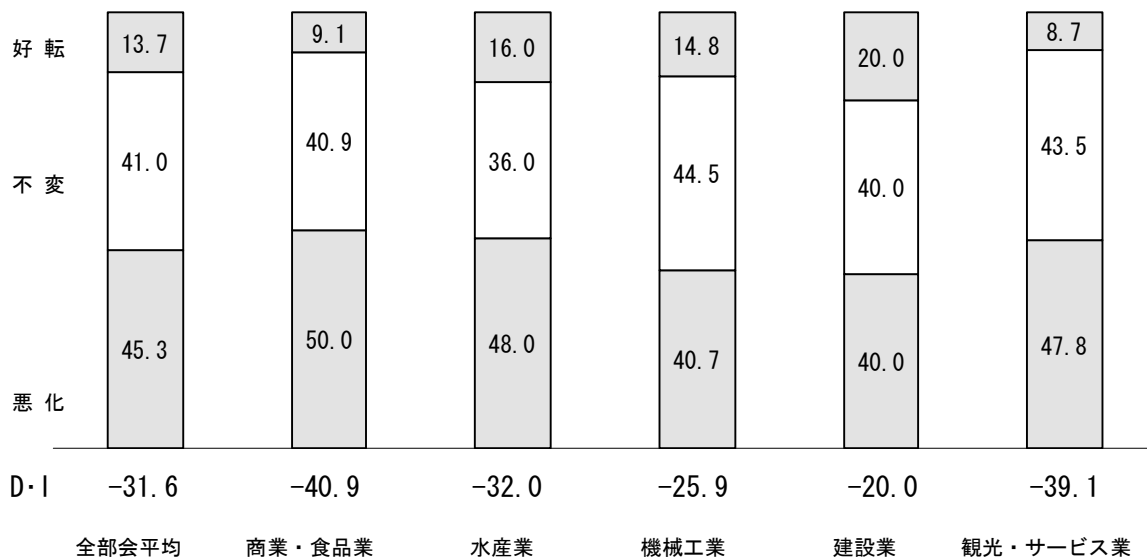
質問事項	回答数	%
1. 実施した	10	9.0%
2. 来期実施予定	2	1.8%
3. 次期末定だが実施予定	17	15.3%
4. 実施予定なし	782	73.9%
合計	111	100.0%

### 3. 来期の見通し

#### (1) 来期の業況

【今期比】（平成 18 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

#### 次期の業況見通し（今期比）

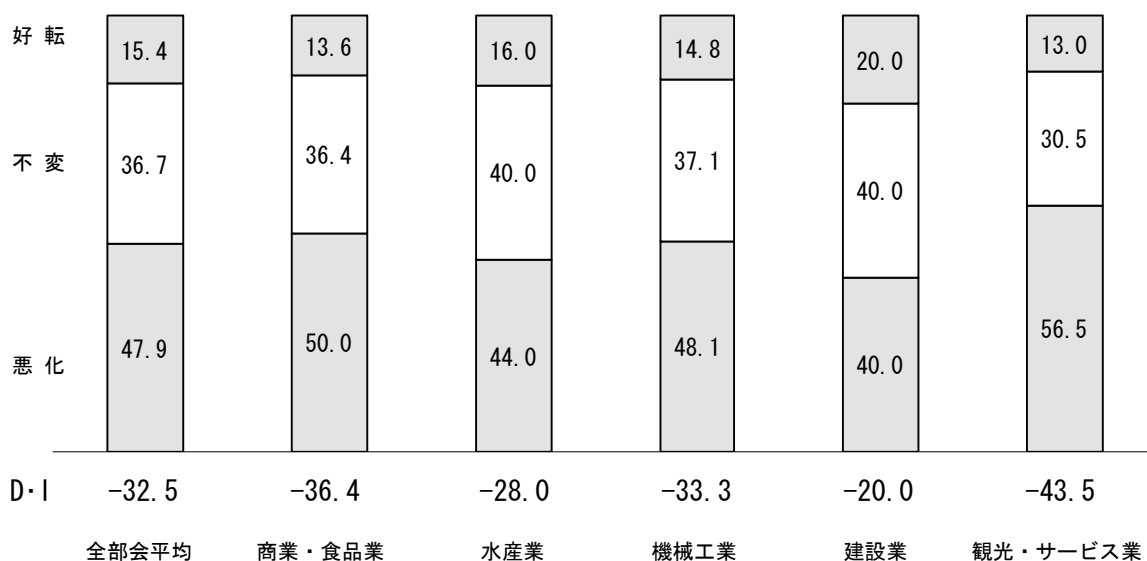


全業種平均 DI 値△31.6 [今期の業況（前年同期比△41.0）より 9.4 ポイント回復の見通し]

#### (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 18 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

#### 次期の売上高・生産高見通し（今期比）

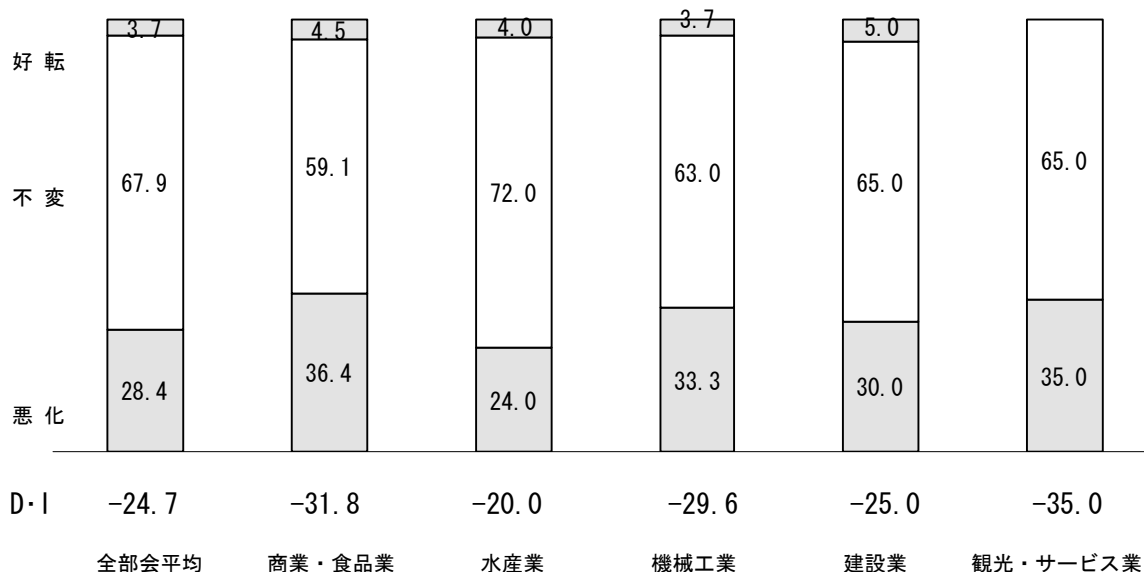


全業種平均 DI 値△32.5 [今期の売上高・生産高（前年同期比△44.8）より 12.3 ポイント回復の見通し]

### (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成18年7月～9月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

#### 次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均DI値△24.7〔今期の資金繰り（前年同期比△28.2）より3.5ポイント改善の見通し〕

### Ⅲ. 各指標

		全体	商業 食品業	水産業	機械工業	建設業	観光サービ ス・諸業
業況判断 D・I	今期実績	△41.0	△59.1	△32.0	△25.9	△30.0	△60.9
	来期見通し	△31.6	△40.9	△32.0	△25.9	△20.0	△39.1
売上 D・I	今期実績	△44.8	△59.1	△44.0	△29.7	△35.0	△59.1
	来期見通し	△32.5	△36.4	△28.0	△33.3	△20.0	△43.5
在庫 D・I	今期実績	4.3	18.2	△8.0	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△44.4	△36.4	△52.0	△37.1	△40.0	△56.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△28.2	△50.0	△20.0	△3.7	△20.0	△52.2
	来期見通し	△24.7	△31.8	△20.0	△29.6	△25.0	△35.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△10.5	△9.5	0.0	△17.4	△15.8	△11.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	15.4	0.0	36.0	21.7	0.0	12.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—